令和７年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

(1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。

(2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。

(3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1　調 査 日　令和７年４月１５日（火）

2　調査対象　品川区立学校　第２～９学年の全児童・生徒

3　調査内容

教科に関する調査

→　調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第２・３学年>　国語、算数
<第４～５学年>　国語、社会、算数、理科
<第　６　学年>　国語、社会、算数、理科、英語
<第７～９学年>　国語、社会、数学、理科、英語

品川区立芳水小学校

令和７年度「品川区学力定着度調査」の結果から
明らかになった２年生の課題と学力向上に向けた取組

国語

１．国語の定着状況についての概要

	平均正答率					観点別正答率			
	目標値	校内	区	全国		目標値	校内	区	全国
基礎	86.0	93.3	91.3	88.4	知識・技能	88.3	95.9	93.3	90.9
活用	58.8	68.8	64.5	59.7	思考・判断・表現	68.9	77.6	74.7	70.3

※目標値をすべての項目で７ポイント以上、上回っている。
全国平均では、全ての項目において上回っている。

２．具体的な課題

① 言葉の学習問題では、身近な物の代名詞や語句、語彙の知識が少ない。また、言葉の共通性や相違性、事柄の順序との関係性を理解できていない。

② 文章を書く問題では、問われていることを正確にとらえてなかったり、読み手が分かる文章の作成ができていなかったりする。また、経験した事柄を想起して文章を書くことに課題がある。

３．課題の原因として考えられること

① 身近な物の代名詞や語句、語彙など聞いたことはあるが、明確に意味を理解できていないと考えられる。そのため、自分の話や文章の中に使うことができず、なかなか語彙が増えていかないと考えられる。

② 「書くこと」の学習で、自分が伝えたいことを明確にできなかったり、思いついたことから書き始めたりしたため、内容がまとまらず読み手が分かりにくい文章になってしまったと考えられる。

４．課題解決のための方策（取組指標）

① 自分の考えを話したり、相手の話を聞いたりする活動を授業の中に取り入れ、互いに新しい語句を増やし、語彙力を豊かにする。

② 国語の授業に限らず、日直のスピーチなどで自分の考えを伝える場を設け、要点をとらえた短い文を書く機会を増やす。

５．次年度の数値目標（成果指標）

○ 校内の平均正答率が、各教科の基礎と活用いずれにおいても、区の平均値を上回るようにする。

令和７年度「品川区学力定着度調査」の結果から
明らかになった３年生の課題と学力向上に向けた取組

国語

１．国語の定着状況についての概要

	平均正答率					観点別正答率			
	目標値	校内	区	全国		目標値	校内	区	全国
基礎	76.3	81.7	80.3	77.1	知識・技能	76.0	77.8	76.3	74.1
活用	50.0	56.6	55.5	48.8	思考・判断・表現	61.4	70.1	68.9	63.1

※目標値をすべての項目で５ポイント以上、上回っている。
全国平均では、全ての項目において上回っている。

２．具体的な課題

① おおむね理解している児童と平均点に満たない児童の二極化が見られる。平均値としては、目標値、区平均、全国平均を超えているが上位層の児童の得点で全体が引き上げられている。より個に対応した指導が必要である。

② 接続詞に続く文章を選ぶ設問（共通・相違・事柄の順序など情報と情報との関係について理解する設問）の正答率が目標値に8.4ポイント達していなかった。

３．課題の原因として考えられること

① 児童の興味関心を引き出すような指導の工夫や、児童の実態に合った授業改善が不十分であること。

② 接続詞がない文章を、接続詞を用いて書き直すという内容の設問が複雑で、問われていることを正しく把握できなかった。

４．課題解決のための方策（取組指標）

① 一人一人の苦手を把握し、個に合わせた指導を充実させる。漢字が苦手な児童は、一緒に目標を立てて練習に取り組めるようにしたり、問題の読解力に課題がある場合は一緒に問題文を読む経験を増やしたりして、苦手意識を減らして学習内容を確実に身に付けられるようにする。また、学習塾等でより高度な内容を普段から学習している児童にも、既習事項が定着していない児童にもそれぞれに合わせた手だてを用意し、個人が目標をもって取り組めるような授業改善を行う。例えば、グループ学習を取り入れ互いに学び合える環境をつくったり、学習前と学習後の考えの変化を残し、視覚的に自身の変容を把握できるようにしたりして、一人一人が主体的に学習に向かえるような授業改善を行う。

② 問題文で問われていることに線を引く、選択肢を一つずつ入れて考えてみる等、設問で何を問われているのかを正しく把握し解答する仕方を、普段のテスト等を活用して身に付けられるようにする。

５．次年度の数値目標（成果指標）

○ 校内の平均正答率（基礎・活用）が、区の平均値を上回るよう指導を続ける。

令和７年度「品川区学力定着度調査」の結果から
明らかになった４年生の課題と学力向上に向けた取組

国語

１．国語の定着状況についての概要

	平均正答率					観点別正答率			
	目標値	校内	区	全国		目標値	校内	区	全国
基礎	70.9	75.0	74.2	70.0	知識・技能	68.0	69.6	69.4	65.0
活用	57.5	70.9	66.8	60.1	思考・判断・表現	65.7	76.5	73.5	68.1

※目標値をすべての項目で上回っている。
　全国平均では、全ての項目において上回っている。

２．具体的な課題

① 漢字の読み書きと文章を書くことに課題が見られた。

３．課題の原因として考えられること

① 漢字の反復学習による定着が図られていない。
② 宿題の提出率が１００％ではなく、家庭で漢字を学習する習慣が身に付いていない。
③ 授業で自分の考えを文章で表現する経験が少ない。

４．課題解決のための方策（取組指標）

① モジュール学習で、新出漢字だけでなく、既習の漢字を反復練習させるようにする。
② 日頃から、学習した漢字を用いて、文章を書くように指導する。
③ 各教科で、自分の考えを文章に書き表す機会を設ける。話型を提示し、全員が文章を書くことができるよう支援する。

５．次年度の数値目標（成果指標）

○ 「漢字の読み書き」は８割、「文章を書く」は７割の正答率を目指す。

令和７年度「品川区学力定着度調査」の結果から
明らかになった５年生の課題と学力向上に向けた取組

国語

１．国語の定着状況についての概要

	平均正答率					観点別正答率			
	目標値	校内	区	全国		目標値	校内	区	全国
基礎	69.4	78.4	75.8	69.3	知識・技能	70.0	76.4	76.2	70.0
活用	58.1	71.7	67.4	59.3	思考・判断・表現	63.0	76.3	71.0	63.5

※校内正答率が、全ての「領域別正答率」で目標値を上回っている。

２．具体的な課題

① 下学年の配当漢字の「書き」の定着が不十分である。今回は「試みる」という字を書けなかった。

② 「調べたことをもとに文章を書く」や「文章を書く」など、自分の考えや事例に基づいて文章を書くことが苦手な児童が多い。

３．課題の原因として考えられること

① 漢字テストのための学習はできているが、日常的に習った漢字を活用しようとする児童が少ない。

② 自分の考えとそれを支える事例との関係に気付くことができず､問いに正対する文章を書くことができていない。また、文章問題を始めから諦め、書こうとしない児童が一定数いる。

４．課題解決のための方策（取組指標）

① 普段の学習の中で、文章を書くときに既習の漢字を正しく使えるように指導する。

② 文章を書く際に構成メモを作成させたり、推敲させたりする経験を増やし、文章構成を考えて書く力や指定された長さの文章が書けるよう指導する。また、一文字も書けていない児童に対しては、問題文を正しく読み取る力を高め、短い文章から書き続ける習慣をつけていく。

５．次年度の数値目標（成果指標）

○ 今年度に引き続き、校内の平均正答率（基礎・活用ともに）が、区の平均値を上回るよう指導を続ける。

令和７年度「品川区学力定着度調査」の結果から
明らかになった６年生の課題と学力向上に向けた取組

国語

１．国語の定着状況についての概要

	平均正答率					観点別正答率			
	目標値	校内	区	全国		目標値	校内	区	全国
基礎	70.8	76.3	76.0	71.8	知識・技能	66.8	71.0	71.3	66.3
活用	53.8	63.5	62.0	54.1	思考・判断・表現	64.7	73.3	72.0	66.4

※国語に関しては目標値を全ての項目で上回っている。しかし、項目別に見ると、漢字や敬語の学習に課題が見られる。また、自分の考えを記述する形式に課題がある。

２．具体的な課題

① 漢字を適切に読んだり書いたりすることや由来についての知識技能において、定着の個人差が大きくなっている。
② 指定された長さで文章を書くことや、段落の役割を正しく理解し、条件に応じて資料から読み取った事実を書くことに課題が見られる。

３．課題の原因として考えられること

① 漢字を読み書きについては、音声言語に触れる機会が増える一方で、本を読む時間が減り、活字に触れる機会が減少していることが原因と考えられる。
② iPad の普及に伴って文字変換がすぐにできる良さがある一方で、設問の意図を理解した上で文章を書くことに慣れていないことも原因と考えられる。

４．課題解決のための方策（取組指標）

① 漢字に意識が向くように授業の中で視覚的に漢字に触れる捉える機会を設定し、文章作りの中で漢字を使う意識をもたせるようにする。
② iPad と作文用紙の使い分けを新ためて考え、課題に応じた手段を選ぶように授業作りを行う。また、目的を明確にしながら適切な言葉を用いて文章を書く活動を取り入れる。

５．次年度の数値目標（成果指標）

○ 今後は、平均正答率【基礎】が区の平均を下回らないようにする。その他の内容についても、継続して区の平均値が上回るようにする。

令和７年度「品川区学力定着度調査」の結果から
明らかになった４年生の課題と学力向上に向けた取組

社会

１．社会の定着状況についての概要

	平均正答率					観点別正答率			
	目標値	校内	区	全国		目標値	校内	区	全国
基礎	72.4	72.9	73.2	70.6	知識・技能	71.6	72.0	72.9	70.7
活用	58.8	68.5	69.0	65.5	思考・判断・表現	60.6	70.5	69.8	65.2

※目標値をすべての項目で上回っている。

２．具体的な課題

① 全国の平均はすべて上回っているが、区の平均は下回っている。
② 資料を読み取ることに課題が見られた。
③ 消防団や人々のくらしの変化に関する設問において課題が見られた。

３．課題の原因として考えられること

① 資料を読み取る活動が不足していると考えられる。
② 消防団や人々のくらしの変化に関する知識が不足している。

４．課題解決のための方策（取組指標）

① 「調べ考える」という社会科の学習の進め方を校内で確認する。例えば、「資料から分かった事は何ですか？」、「この資料からどんな事が考えられますか？」などの発問をする。
② ｅライブラリを活用し、課題の見られる単元の復習を行う。

５．次年度の数値目標（成果指標）

○ 次年度は、校内の平均正答率が、各教科の基礎と活用いずれにおいても、区や全国の平均値を上回るようにする。

令和７年度「品川区学力定着度調査」の結果から
明らかになった５年生の課題と学力向上に向けた取組

社会

１．社会の定着状況についての概要

	平均正答率					観点別正答率			
	目標値	校内	区	全国		目標値	校内	区	全国
基礎	69.1	77.0	74.5	68.6	知識・技能	66.7	74.7	72.5	66.2
活用	55.7	68.1	66.2	60.0	思考・判断・表現	63.8	74.1	71.7	65.9

※校内正答率が、全ての「領域別正答率」で目標値を上回っている。

２．具体的な課題

① 「都道府県の様子」の問題における交通の様子について、地図に記されている複数の情報を読み取り、問いに応じて考えることに課題が見られる。

３．課題の原因として考えられること

① 資料から分かる情報を正確に読み取る力が十分に育っておらず、自分の考えをもつまでに至っていないことが考えられる。
② 資料から読み取った情報を整理して、分析する力が高められていないこと。
③ 複数の資料を関連付けながら読み取る経験値が不足していることが考えられる。

４．課題解決のための方策（取組指標）

① 一つ一つの資料を見る視点や、ポイントを明確に示して学習を進めるように学習設定を行う。
② 自分の考えをもち、自分の力でまとめる時間を十分に確保する。
③ 少人数で学び合う場の設定を行い、社会的事象について多面的に捉える機会を作ること。
④ 授業で扱う資料を精選した上で、資料を関連付けて取り扱う機会を提供するようにする。

５．次年度の数値目標（成果指標）

○ 校内の正答率が、今年度同様に「基礎・活用」のいずれにおいても目標値を上回るようにする。

令和７年度「品川区学力定着度調査」の結果から
明らかになった６年生の課題と学力向上に向けた取組

社会

１．社会の定着状況についての概要

	平均正答率					観点別正答率			
	目標値	校内	区	全国		目標値	校内	区	全国
基礎	68.9	75.6	72.2	67.9	知識・技能	67.9	75.0	71.1	66.9
活用	64.4	78.4	75.0	72.0	思考・判断・表現	66.8	78.9	76.1	72.9

※社会科に関して、【基礎・活用】ともに目標値を上回っている。観点別にみると、【知識・技能】において目標値は上回っているが、区の平均とあまり変わらない数値結果である。これは、単元ごとに定着の偏りがあったのではないかと考えられる。

２．具体的な課題

① 「日本の農業」における米づくりの作業（代かき）についての理解が目標値より 8.8 ポイント下回っている。
② 「世界の中の国土」のアメリカの位置と国旗についての理解が目標値より 0.6 ポイント下回っている。
③ 「世界の中の国土」の大西洋の位置と名称についての理解の正答率が 48.8%で、半数が誤答である。

３．課題の原因として考えられること

① 基礎的な知識の定着が不十分である。問題の内容（領域）によっては定着が見られるので、学習内容ごとの定着に差が見られたと考えられる。

４．課題解決のための方策（取組指標）

① 第５学年で習った各単元での学習内容を、現在指導している歴史的分野の学習と絡めながら復習する。
② 歴史的分野の学習を通して、過去から現在に至るまでの過程に目を向けるだけでなく、物事を様々な角度から見たり、グループで意見交換をして自分の考えをまとめたり、自分の意見を説明する機会を増やしたりしていく。

５．次年度の数値目標（成果指標）

① どの観点も目標値、平均値を上回っているので現状を下げないようにすること。
② 単元で正答率が低かったものについては、校内で共有し丁寧な学習指導を図り、学力の定着を図る。

令和７年度「品川区学力定着度調査」の結果から
明らかになった２年生の課題と学力向上に向けた取組

算数

１．算数の定着状況についての概要

	平均正答率					観点別正答率			
	目標値	校内	区	全国		目標値	校内	区	全国
基礎	85.2	88.8	89.1	88.2	知識・技能	84.8	89.7	89.5	88.0
活用	70.7	80.2	76.8	73.3	思考・判断・表現	72.1	76.0	75.1	73.8

※目標値をすべての項目で３ポイント以上、上回っている。
全国平均では、全ての項目において上回っている。

２.具体的な課題

① 「とけい」では、何時何分を示す時計を読み取ることができていない。また、何時半を示す時計を理解していない。

② 「３つのかずのけいさん」では文章問題を正しく読み取れず間違った立式をしていたり、正答な立式をしても計算ミスをしてしまったりしている。

３.課題の原因として考えられること

① 分を単位とする時刻の読み方、５分間隔の数字の概念が定着していない。

② 文章問題が通常と異なり、２つの場面が出てきたため、１つの式に立式できなかったと考えられる。

４．課題解決のための方策（取組指標）

① 授業だけでなく普段の生活でも時計を意識して読み取る場面を設ける（授業始まりや終わり、学校行事、生活科見学など）。

② 問題文を読むときに問われていることに線を引かせたり、分かっている情報（数やキーワード）には〇で囲んだりさせて、正確に問題を読み取るようにする。

５．次年度の数値目標（成果指標）

〇 校内の平均正答率が、各教科の基礎と活用いずれにおいても、区の平均値を上回るようにする。

令和７年度「品川区学力定着度調査」の結果から
明らかになった３年生の課題と学力向上に向けた取組

算数

１．算数の定着状況についての概要

	平均正答率					観点別正答率			
	目標値	校内	区	全国		目標値	校内	区	全国
基礎	78.0	82.8	80.3	79.6	知識・技能	75.6	80.0	77.9	77.1
活用	57.5	64.8	63.4	58.8	思考・判断・表現	66.0	75.8	72.4	67.7

※目標値をすべての項目で４ポイント以上、上回っている。
全国平均では、全ての項目において上回っている。

２．具体的な課題

① 数の大小の意味と不等号の意味を理解しているかを問う問題。
② 直方体を作るときに、示された面がいくつ必要かを理解しているかを問う問題。.

３．課題の原因として考えられること

① 数の大小比較をするときに、どこの位に注目したらよいのかを正しく理解できていない。
② 直方体の面の関係を正しく理解していない。

４．課題解決のための方策（取組指標）

① □の位置を一の位、十の位、百の位と様々な位置にして似たような問題を繰り返し解くことで、数の大小にどのようなきまりがあるのか理解できるようにする。また、数の大小を比べるときのきまりを言語化して表すことで、理解を深められるようにする。また、自分たちで問題作りをする活動や、大小比較をするカードゲームを取り入れ、楽しみながら数の仕組みについて把握できるようにする。
② 実際に箱の具体物で確認をしたり、デジタル教科書の教材を使って箱の形を立体的にとらえたりすることで、面と面の関係を正しく理解できるようにする。

５．次年度の数値目標（成果指標）

○ 昨年度に引き続き、区の平均値を２ポイント以上上回るように指導する。

令和７年度「品川区学力定着度調査」の結果から
明らかになった４年生の課題と学力向上に向けた取組

算数

１．算数の定着状況についての概要

	平均正答率					観点別正答率			
	目標値	校内	区	全国		目標値	校内	区	全国
基礎	75.0	84.1	79.4	76.1	知識・技能	75.4	83.0	78.9	76.4
活用	59.3	68.2	62.9	59.2	思考・判断・表現	57.9	72.0	64.7	58.3

※目標値、区平均、全国平均より、基礎・活用ともに大幅に上回っている。観点別正答率も同様である。

２．具体的な課題

① 基礎・活用・観点別の正答率全てにおいて、校内平均が目標値・区平均・全国平均を上回っている。しかし、高得点を取る児童がいる一方で、算数を苦手とする児童が２割程度いる。

② かけ算の筆算に出てくる数の意味に関する問題の正答率が、４割に満たなかった。

３．課題の原因として考えられること

① 得点が取りにくい児童は、記述問題での無回答が多く、最後まで取り組む力が弱い。

② 計算方法の知識だけ先行し、根本的な数の構造や計算式の成り立ちを理解している児童が少ない。

４．課題解決のための方策（取組指標）

① 単元や学習内容によって、個々の課題にあった教材を用意する。

② 計算を解くだけでなく、どうしてその方法で計算できるのか、自ら考え友達と対話する機会を多く作る。

５．次年度の数値目標（成果指標）

○ 校内の平均正答率が、各教科の基礎と活用いずれにおいても、区の平均値を上回るようにする。

令和７年度「品川区学力定着度調査」の結果から
明らかになった５年生の課題と学力向上に向けた取組

算数

１．算数の定着状況についての概要

	平均正答率					観点別正答率			
	目標値	校内	区	全国		目標値	校内	区	全国
基礎	68.5	76.6	74.9	70.1	知識・技能	68.5	76.0	74.6	69.6
活用	59.4	73.9	69.6	62.2	思考・判断・表現	59.4	75.4	70.2	63.3

※目標値をすべての項目で7.5以上上回っている。
全国平均では、全ての項目において上回っている。

２．具体的な課題

① 位取りの表を使って大きい単位の数を表すことに課題がある。
② 平行四辺形の作図問題で目標値を大きく下回っており、作図が苦手な児童が多いことが伺える。

３．課題の原因として考えられること

① 知識として理解しているものの、その知識を日常生活に生かしていくことが苦手である。
② 作図の方法を十分に理解していない児童が多い。また、技能の習得も十分ではない。

４．課題解決のための方策（取組指標）

① 自分のもっている知識や数量を生活や身近なものと結び付け、見当を付けたり推察したりしながら活用できるように指導する。
② 作図の指導の際に、根拠となる図形の性質を理解させることで、見通しをもって作図する力を身に付けられるようにする。

５．次年度の数値目標（成果指標）

○ 校内の平均正答率が、各教科の基礎と活用いずれにおいても、区の平均値を上回るようにする。

令和７年度「品川区学力定着度調査」の結果から
明らかになった６年生の課題と学力向上に向けた取組

算数

１．算数の定着状況についての概要

	平均正答率					観点別正答率			
	目標値	校内	区	全国		目標値	校内	区	全国
基礎	66.5	80.2	74.2	66.7	知識・技能	67.1	79.0	74.0	66.2
活用	50.0	62.4	53.8	43.5	思考・判断・表現	55.4	70.9	61.9	53.2

※算数においては目標値を全ての項目で上回っている。また、全ての項目で区平均を上回っており、習熟度別少人数クラス算数において、自力解決の時間をじっくり確保し、考えを交流したり発表したりすることによって、自分の考えを整理しながら学習を理解することにつながったと考えている。

２．具体的な課題

① 基礎・活用、領域別ともに、すべての項目で校内平均が目標値・区平均・全国平均を超えた一方、高得点をとる児童と、全体的な理解が不足している児童の差は大きい。

３．課題の原因として考えられること

① 課題がある児童に関して、知識や技能が身に付いておらず、問題を最後まで解こうとする力が弱い。落ち着いて物事を整理する力が不十分である。

② 問題をよく読む、問題で求められている解答を理解して解くなどの理解力が不足している。

４．課題解決のための方策（取組指標）

① 一人一人の課題をしっかりと見極め、単元や学習内容によって個別の課題にあった教材を用意するとともに、少人数習熟度別学習を生かし、さらに個々の課題に沿った学習を工夫していく。

② 個人面談で学習成果について伝え、長期休みの課題や日々の宿題などで、毎日復習できるよう課題を設定する。

５．次年度の数値目標（成果指標）

○ 校内の平均正答率が、各教科の基礎と活用いずれにおいても、区の平均値を上回るようにする。

令和７年度「品川区学力定着度調査」の結果から
明らかになった４年生の課題と学力向上に向けた取組

理科

１．理科の定着状況についての概要

	平均正答率					観点別正答率			
	目標値	校内	区	全国		目標値	校内	区	全国
基礎	64.3	64.7	62.8	62.0	知識・技能	61.8	62.4	59.6	59.2
活用	50.0	51.9	49.6	45.1	思考・判断・表現	57.1	58.3	57.3	53.3

※目標値、区平均、全国平均より、基礎・活用ともに上回っている。観点別正答率も同様である。

２．具体的な課題

① 「じしゃくのせいしつ」では、実験から２つの磁石の極を分析できず、目標値を約１０点下回った。

② 正答率の平均は、いずれも国や全国を上回っているが、正答率が高い児童が多い一方で、正答率が低い児童も多く、二極化が見られた。

３．課題の原因として考えられること

① 鉄が磁石をくっつけるということは理解しているものの、磁石にはＳ極とＮ極があり、同じ極同士だとしりぞけ合い、異なる極だと引き合う性質があることを理解できていないと考えられる。

② 全体としては、理解している児童が多い一方で、授業の進度に理解が追い付いていない児童も一定数いるためと考えられる。

４．課題解決のための方策（取組指標）

① 磁石にＮ極とＳ極があることを学習して、極で色分けをした磁石同士を児童が近付ける活動を通して、同じ極同士だとしりぞけ合い、異なる極だと引き合う性質があることをより実感して捉えられるようにする。

② 基礎的・基本的な知識や技能を児童が十分に習得できるように、前学習の内容を振り返ったり、学習した語句を活用して発言したり、書いたりする機会を設けるようにする。また、主体的、協同的な学習により、児童同士が学び合い、理解を深められるようにする。

５．次年度の数値目標（成果指標）

○ 校内の平均正答率が、各教科の基礎と活用いずれにおいても、区の平均値を上回るようにする。

令和７年度「品川区学力定着度調査」の結果から
明らかになった５年生の課題と学力向上に向けた取組

理科

１．理科の定着状況についての概要

	平均正答率					観点別正答率			
	目標値	校内	区	全国		目標値	校内	区	全国
基礎	68.5	71.5	69.3	66.9	知識・技能	66.8	69.6	67.1	64.6
活用	46.7	48.8	46.1	43.2	思考・判断・表現	54.6	57.1	55.0	52.4

※目標値をすべての項目で２ポイント以上、上回っている。
全国平均では、全ての項目において上回っている。

２．具体的な課題

① 「物の体積と力」について、閉じ込めた空気を圧し縮めたときの手応えの理解に課題がある。
② 「物の体積と温度」について、水をあたためたときと冷やしたときの体積の変わり方の理解に課題がある。

３．課題の原因として考えられること

① 学習時の体験活動が不十分であったか。
② 学習時は理解できているが、その後の復習が不十分であったか。

４．課題解決のための方策（取組指標）

① 十分な体験活動（実験）を確保する。
② 適宜、繰り返し復習を行う。

５．次年度の数値目標（成果指標）

○ 今年度と同じく、校内の平均正答率が、各項目・観点別の基礎と活用いずれにおいても、区の平均値・目標値を上回るようにする。

令和７年度「品川区学力定着度調査」の結果から
明らかになった６年生の課題と学力向上に向けた取組

理科

１．理科の定着状況についての概要

	平均正答率					観点別正答率			
	目標値	校内	区	全国		目標値	校内	区	全国
基礎	64.7	69.2	67.3	65.6	知識・技能	65.3	70.0	68.5	66.3
活用	65.5	69.4	68.0	65.8	思考・判断・表現	64.6	68.3	66.2	64.7

※基礎・活用の定着において、本校の値は目標値、区、全国ともに上回っている。観点別正答率では本校の値は目標値、区、全国ともに上回っている。前年度の校内の正答率と比較して、基礎・活用・観点別すべて上回っている。

２．具体的な課題

① 「顕微鏡のピントの合わせ方」についての理解が目標値の 65.0 に対して、62.4 と到達していない。
② 「アメダス」についての理解が目標値の 40.0 に対して、39.2 と到達していない。
③ 「ヨウ素でんぷん反応」についての理解が目標値の 35.0 に対して 32.8 と到達していない。
④ 「子宮」についての理解が目標値の 60.0 に対して 58.4 と到達していない。
⑤ 「ふりこの周期の平均の求め方」についての理解が目標値の 35.0 に対して 30.4 と到達してない。
⑥ 「コイル」についての理解が目標値の 70.0 に対して 66.4 と到達していない。

３．課題の原因として考えられること

① 実際に顕微鏡を使用した際に、触れられた時間に個人差があった。
② アメダスはシステムの名前なので児童自身のイメージが欠けている。
③ でんぷんによってヨウ素液の反応が起きていることの理解ではなく、色が変わることだけ理解している。
④ 資料映像を活用したが、実験等なかなか行える単元ではないので理解度に差が生じた。
⑤ 平均を求める方法自体の理解が不足している児童がいる。
⑥ 一人一つコイルを自作したが、理解の定着に差が生じた。

４．課題解決のための方策（取組指標）

① 顕微鏡を使用する時間を多く確保する。
② 調べ学習をする際に気象観測について重点的に調べさせる。
③ でんぷんによって反応が生じていることを重点的に指導する。
④ 人の誕生に関わる新出用語を働きも含めて調べさせる。
⑤ 算数の単元とも連携し理解を深める。
⑥ コイルを作成するだけではなく、その役割や機能についても重点的に指導する。

※そのほかにも可能な限り、観察や実験を取り入れていき、実験の方法から児童に考えさせ、児童主体に授業展開をしていく。

５．次年度の数値目標（成果指標）

○ 校内の平均正答率が、基礎・活用・観点別いずれにおいても、区の平均値と目標値を上回るようにする。

令和７年度「品川区学力定着度調査」の結果から
明らかになった６年生の課題と学力向上に向けた取組

英語

１．英語の定着状況についての概要

	平均正答率					観点別正答率			
	目標値	校内	区	全国		目標値	校内	区	全国
基礎	78.2	90.7	87.9	82.4	知識・技能	78.1	91.2	88.3	82.4
活用	65.7	79.9	76.3	68.9	思考・判断・表現	72.7	84.8	81.9	76.2

※校内正答率が、全ての領域別・観点別正答率で目標値を上回っている。

２．具体的な課題

① 目標値に対して、英作文における正答率がほかの問題に比べて低い。

３．課題の原因として考えられること

① 書く力の定着が十分ではない。（国語でも同様の結果が見られる。）

４．課題解決のための方策（取組指標）

① 英語の学習だけではなく、国語や他教科を通して、言語化してアウトプットする機会を増やす。
② 必要に応じて、表現の型を用意し、書くことへのハードルを下げる手立てを打つ。

５．次年度の数値目標（成果指標）

○ 校内の平均正答率が、区内の目標値を 10 点以上上回るようにする（本年度は＋８点）。